

高崎市の路線バスの新たな方向性と課題解決に向けた研究

経済学部 教授 大島 登志彦

研究成果

高崎市は、群馬県内の主要交通拠点都市であり、鉄道交通はもちろん、路線バスも、渋川・吾妻などの北毛、前橋・伊勢崎などの中毛と繋がり、中枢をなしてきた。私はこれまで、歴史的課題を中心に、様々な観点から群馬県内のバスの課題を考察してきた。

今年度は、当予算を活用した特色あるバスが走る地域へのフィールド調査（秋田市とその周辺、長野県北部、紀伊半島、北海道、福井県内など）を通じて、高崎市を主体とした群馬のバス事情の長短所や特徴と課題を考察した。また、これまでの私の研究を総括しながら、高校生の通学事情に関わるバス利用促進策と、昨年度に継続して、地方都市圏の路線バスにおける IC カードの導入について考察を継続した。それらの研究成果は、次の論著にまとめて、公表される予定である。

・「地方都市域の路線バスの変遷に内在する制度や諸課題の考察－群馬県内の事例で見る諸問題－」

（高崎経済大学論集 62-3・4、2020 年 3 月本学より刊行予定）

・「市町村毎に異なる路線バス政策が採られた地域の変遷過程と課題－群馬県北毛地域の各市町村の事例研究－」

『地域公共交通の維持と活性化（仮題）』

（成山堂書店より 2020 年 7 月頃発刊予定）

・「地方の路線バスの運賃支払いの変遷と IC カードの導入に関わる課題」

『過疎地交通の新展開と地域コミュニティのインパクト』

（日本交通政策研究会より 2020 年 4 月頃発刊予定）